

姉妹提携十周年を出発点に新たな交流が生まれる

「クマモト国際交流週間」開催

八十年代に始まった姉妹提携交流も十年が過ぎ、中国広西壮族自治区、アメリカ合衆国モンタナ州、韓国忠清南道の三地域を中心に交流が広がってきました。今後の国際交流や国際協力のあり方を考えようと、五月下旬を「クマモト国際交流週間」として県内で様々な催しが行われます。

●十周年を迎えた姉妹提携

熊本県は昭和五十七年度にアメリカ合衆国モンタナ州、中国広西壮族自治区、韓国忠清南道と姉妹提携を結び、以来、交流を幅広く行ってきました。そのほかにもEU各国や、熊本県から多くの人が移住している北米、中南米の国々と交流し、国際化の推進を図ってきました。姉妹提携先との交流が休眠状態になっている自治体や団体が多い中で、活発な活動を続けています。



中国の広西から来熊した少数民族歌舞団の公演(熊本市にて)

この間様々な分野で交流が拡大し、当初行政主導型であったものが、次第に県民主体の交流に移ってきました。また、これまで交流のなかったモ

ンタナ州と広西壮族自治区が、熊本を通して新しい交流を始めたという動きもあります。今、これまでの十年を振り返り、今後のあり方を考える時期が来ています。そこで、三姉妹提携地域の知事が熊本を訪問する五月下旬を「クマモト国際交流週間」として、次の三つを柱に催しを行います。



モンタナ州のネイティブ・アメリカンの祭

各地域の持つ課題などについて、幅広く率直に意見交換を行い、今後の各種の地域間交流や相互協力の重要性、基本方向につき認識の共有化を図ります。

●姉妹提携首長会議

行政、福祉、国際協力、NGO活動など、足元からの行動がどのように行われているか、皆さんにご覧いただき、参加していただく絶好の機会となるで

ワークシヨップ 各地域共通の課題である、経済、行政、教育などの分野で、現状と問題点、今後のあるべき方向について、来熊する各姉妹提携地域の専門家、県内関係者を中心に議論を深めます。

●協賛イベント

姉妹提携の目的の一つは、交流を通して、県民が国籍・人種の違いを越えて、等しく人間として理解し合い、協力し合うことを学ぶことにあります。県内ではすでに様々な国際交流や国際協力が行われていますが、特に地道に行われている活動を広く県民の皆さんに紹介する機会となるように、県内の各国際交流・協力団体が様々なイベントを行う予定です。姉妹提携関係にとどまらず、教育、環境、ビジネス、社会問題、文化



韓国の大田エキスポ会場で行われた「熊本DAY」の「クマモト国際交流週間」

この「クマモト国際交流週間」はあくまでも一つの通過点であり、これをきっかけに多分野での県民の皆さんの活躍がますます盛んになっていくことを期待しています。

■主な行事日程 ※いずれも一般の方々も参加できます。

会場	時間	内容
5月25日(水)		
ニュースカイトレ	18:00~20:00	各首長と県民とのつどい
5月26日(木)		
熊本学園大学	9:00~10:15	来熊3首長による特別講義
県立劇場	10:30~12:00	各首長の特別スピーチ(教育講演会にて)
ニュースカイトレ	9:00~12:00	テーマ(経済・教育・行政)別ワークシヨップ(姉妹提携先の専門家を交えた討論会)

建築物の整備でハードのバリアフリーを

「やさしいまちづくり建築物整備ガイドライン」策定

熊本県では、高齢者や障害者の自立と社会参加を促進し、だれもが安心して気軽に出入りできるような「やさしいまちづくり」が進められています。その一環として、公共的建築物の整備を進めるための「くまもと・やさしいまちづくり建築物整備ガイドライン」を策定しました。

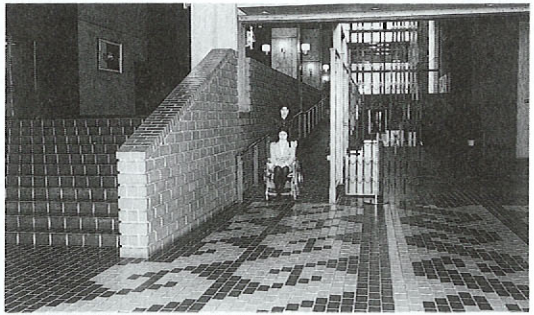
いて、整備する際の基本的な考え方や寸法などが具体的に示されています。今回の建築物整備ガイドラインは、ハード整備の側面から「やさしいまちづくり」を進めるものです。しかし、ハード面とともに、人々の意識や色々な社会的制度にある障壁を除去するなどソフトのバリアフリー化やボランティアなど「やさしい心づかい」が広く人々の意識に浸透することも必要です。そこで、本県ではハード・ソフトの両面からの「優しいくまもとづくり」を着実に進めていくための拠りどころとして、平成六年度の制定を目指して「やさしいまちづくり条例(仮称)」の検討を進めています。

●たくさんの人々が関わったガイドラインづくり

ガイドラインを作るにあたり、各界の代表者四十一名による「くまもと・やさしいまちづくり推進協議会」と県下十一地区の「地区推進協議会」が組織されました。高齢者、障害者など様々な人々の意見を伺い、約三百名の委員により協議されたガイドラインは、

●民間の建築物も「みんなにやさしく」

ガイドラインの目的は、高齢者、障害者、妊産婦子どもを含むすべての県民に配慮した建築物の整備を進めていくことです。また、県民の間に「やさしいまちづくり」の意識を普及させる役割もあります。整備の対象となるのは、銀行、デパート、病院、レストランなど日常生活に関わりの深い建築物。出入口へのスロープ設置、車いすの人が利用しやすい高さのカウンターや公衆電話の設置階段への手すり設置、障害者でも利用できるトイレや駐車場の設置など建築物のバリアフリー化(障壁解消)につ



県立劇場エントランスホールのスロープ

ハード・ソフト両面からのバリアフリーが進むことにより、障害のある人もない人も、高齢者も子どもも、男性も女性も、ともに地域でお互いに尊重し合って生活できるような「ノーマライゼーション」の理念が具現化した「優しいくまもと」

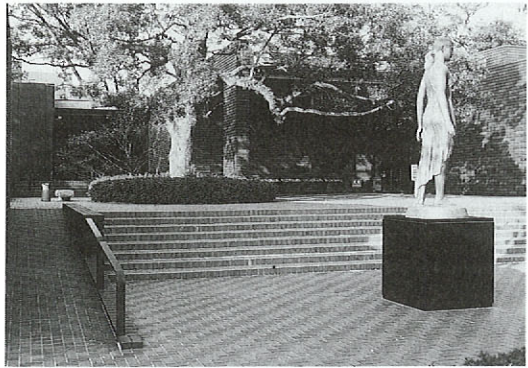


熊本学園大学(旧熊本商科大学)の障害者用トイレ

「優しいくまもと」につながります。今回策定されたガイドラインも、明日の「優しいくまもと」をつくるために役立つよう、多くの方のご活用をお願いいたします。

●お問い合わせは

熊本県社会福祉課地域福祉推進室  
☎096(383)1111まで



県立美術館玄関前のスロープ

「優しいくまもと」の意識を普及させる役割もあります。整備の対象となるのは、銀行、デパート、病院、レストランなど日常生活に関わりの深い建築物。出入口へのスロープ設置、車いすの人が利用しやすい高さのカウンターや公衆電話の設置階段への手すり設置、障害者でも利用できるトイレや駐車場の設置など建築物のバリアフリー化(障壁解消)につ

ハード・ソフト両面からのバリアフリーが進むことにより、障害のある人もない人も、高齢者も子どもも、男性も女性も、ともに地域でお互いに尊重し合って生活できるような「ノーマライゼーション」の理念が具現化した「優しいくまもと」

\*バリアフリーとは障害者や高齢者の方などが生活するうえで、行動の妨げになる物理的障壁や精神的障壁を取り去ったやさしい生活環境のあり方をいう。  
\*ノーマライゼーションとは、「障害のある人もない人もともに生きている社会こそ正常(ノーマル)な社会である」という考え方をいう。